

福祉部会

真愛ホームの感謝会に参加

生5-中 杉野 好一

今年度の標記ボランティア感謝会が1月26日(日)にあり、各ボランティアの方々や職員の方を含め総勢41名が参集して、四国阿波へ

の発展にも生涯を掛けた人である。

次にドイツ館に入ると床も階段もドイツ産の大理石で明るく輝いていた。第一次世界大戦に敗れた青島(中国山東半島)のドイツ兵捕虜5千人の内千人が1917~20年の3年間をここ坂東捕虜収容所で過ごした。その頃のドイツ兵の暮らしぶりや地元の人達との交流の様子を模型や人

形を巧みに使って楽しく分りやすく展示してあった。また、進んだドイツの技術や文化を俘虜を通じて受け入れて日常も「ドイツさん」の愛称で親しんだとのこと。この地が日本で最初にベートーヴェンの第九が全曲演奏されたところとは私は知らなかった。現在鳴門市とドイツリュネブルク市は姉妹都市であり、今も国際交流が続いている。

昼食は「阿波の里」(徳島県指定観光ステーション)の大正時代の雰囲気漂う本館で頂いた。食事を囲んで職員や各ボランティアの紹介もあり和気藹々のうちに相互の歓談と交歓は進んでいった。

帰路もバスは順調に走ってくれて予定より早く三宮に着き自由解散となった。今回は賀川豊彦の偉大な足跡を偲びつつもボランティアの原点を探るような思い出多き旅だったように私には思えた。



賀川豊彦記念館前、前列右から2人目が筆者

の小旅行を楽しんだ。グループ“わ”からは16人が加わり、私は初めての参加であった。

三宮を午前9時前にスタートした観光バスは僅か1時間30分余りで第一の目的地である徳島県の鳴門市に到着した。

駐車場を挟んで左側に昨年3月開館の賀川豊彦記念館、右側に階段があり、それを登ってゆくと1993年に建替えられた洋風の鳴門市ドイツ館があった。2班に分かれて約2時間近くかけて見学した。先ず豊彦館は木造2階建てで、新しい木の香りにつつまれていた。一般説明を受けた後、館内を見学した。鳴門の誇る賀川豊彦の生い立ちとキリスト教社会運動家としての生涯を通じての諸活動の有様が克明に展示されていた。彼の社会運動の実践家としての功績に感銘をうけた。同郷の大宅壮一は彼を近代日本のコンダクターと讃えていた。神戸とも縁が深く、神戸で生まれ、神戸神学校(現在の関学大の前身)で学び、神戸新川での布教活動や生活協同組合(灘生協に関連)

ドイツ館前



ボランティア保険のお知らせ

ボランティア保険の有効期限が3月末で失効となります。15年度分の加入については会員の皆様方にご案内をしますが、継続される方は必ず申し込み期限までに、忘れずにお返事をくださるようお願いいたします。保険はボランティアを行う場合万一の事故の保証です。必ず加入してください。

(事務局)